

イスラム文化への誘い

◆イスラムの世界へようこそ

はじめまして。私は青年海外協力隊・村落開発普及員としてマレーシアに派遣されている不動田（ふどうた）と申します。主に貧困層の人々が住む村に入り、熱帯雨林等の環境を傷つけることなく彼らの生計を向上させるというプロジェクトを行っています。

今回はそんな私が普段暮らしているマレーシアという国の持つ特徴を皆さまにお伝えしようと思います。それはズバリ、イスラム教の国である、ということです。

マレーシアは国教がイスラム教です。マレー人はイスラム教徒であることが条件となります。しかし、マレーシアは他民族国家であり、他に中華系やインド系、その他古くから住む現住民族などがおり、それぞれ仏教やキリスト教、ヒンズー教など信仰する宗教も多種多様。マレー人以外の信教の自由は認められており、宗教を原因とした対立や暴動なども起きてはいません。

ややもすると日本ではイスラム教と聞くと中東やフィリピンなどの原理主義勢力や、テロリストなどのイメージが先行しているかもしれません。しかし、報道されないイスラム教こそ、日常のイスラム教の姿なのです。特にマレーシアは同じアジア系の国家とあって、また多民族国家の中で保たれた温厚なイスラム教だけあって、イスラム初体験の方々にも受け入れられやすいと思います。

◆タブーとお祈り

有名なところでは、タブーから。イスラム教徒は豚肉は厳禁。お酒も飲めません。ちなみに犬も忌み嫌われます。その他の肉類もルールに則った処理をしないと食べられません。マレーシア料理の食堂に行くと、清涼飲料水+鶏肉のオンパレード。その他牛肉や羊も食べます。

こうした豚肉やアルコールを使わず、指定された処理方法で作られた食品を「ハラル」と呼び、この公式に認定されたハラルマークがある食堂や食品だけ、イスラム教徒（ムスリム）の人たちは利用できます。例えば彼らに対するお土産なども、ハラルマークがないと基本的に食べてもらえません。ムスリムが日本に行った時困るのは食堂だ、という話もよく聞きますが、最近では日本にもハラルの食堂が増えているとか。

あと、1日5回のお祈り。その際、スピーカーからはお祈りの時間を知らせる「アザーン」という謡曲のようなものが大音量で流れます。時間が決められており、夕方などはまだいいのですが、早朝5時にも容赦なく流れるので、慣れていないと起きてしまいます。しかし、節がついた音楽であるため、慣れてくると気にしなくなります。

街には至る所にタマネギ型をした屋根を持つモスクがあり、ムスリムの中でも敬虔（けいけん）な方々はお祈りに行きます。このモスク、まわりはイスラムの芸術でよく見られる幾何学的紋様が巡らされていて、下には絨毯（じゅうたん）がひかれています。ただ、偶像崇拝が禁じられている宗教であるため、中はがらんどろ。ひたすらメッカ



マレーシアで最も有名なモスクのひとつ、ブルーモスク

の方角に向かって祈りを捧げます。モスクに行けば、敬虔なムスリムの姿とイスラム芸術の華麗さに、何か神妙で荘厳な印象を受けることができます。その中でも毎週金曜日は大きな礼拝があり、マレーシアの中でも厳格なムスリムが住む州などは休日を金曜日と土曜日に設定しているところもあるようです。

◆マレーシアのイスラムの寛容さ

イスラムの人々にとっての最大の行事は年に1回の断食です。日の出から日没まで、物を食べることはおろか、水を飲むこともできません。これが1ヶ月続きます。その間、夜中はいつも盛大なパーティー。そして断食明けの休日はいろんな家に訪問してお菓子を食べまわります。この断食、ムスリムの人々は仕事にならないほど大変なようですが、それでも習慣化しているため、皆さん耐える事ができます。これを日本人が真似しようとしても、2日くらいもてばいいほうでしょうか。

この断食の体験の共有が、彼らムスリムの結束を強めるという見方もできます。一方で、つらさをわかちあい、つらい人々の気持ちになってあげる、という効果もあるのではないかと思います。

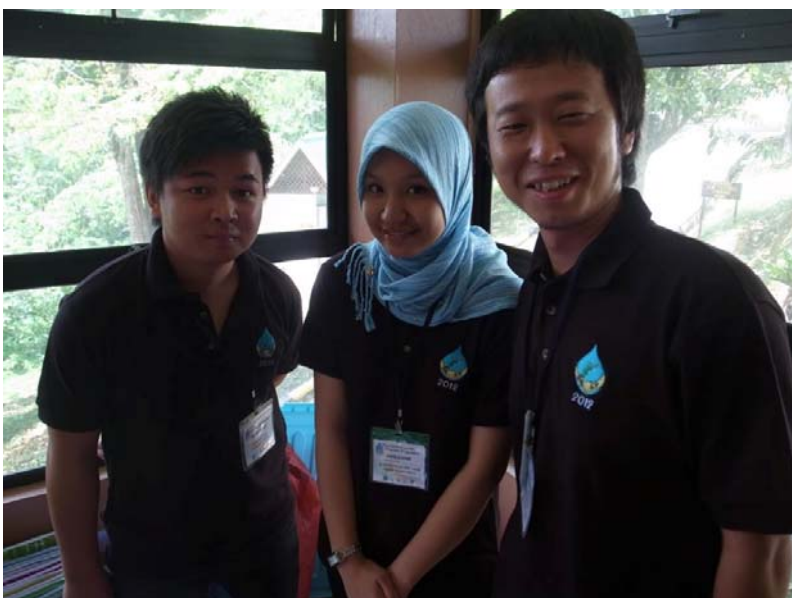
実際、私がこの国で活動している際、ムスリムの人々に幾度となく助けられました。いたわりの言葉をかけてくれたり、心配してくれたり……。一回、自宅で盗難にあった際は、それを聞きつけた若いムスリムの女の子がご飯しっかり食べて、と現金（それも決して安くはない）をくれたこともありました。固辞したのですが、食べられなくなったら困るから、とのこと。ありがたく頂戴しました。

彼らは自然といった風で、困った人を見れば手を差し伸べます。バスにお年寄りが乗ってきたら我先にと席をあけます。街角で募金をしていたらほぼ必ずお金を入れます。いたわる心が自然と身に付いているようです。それこそがイスラム教の教えの良い部分なのではないでしょうか。

そしてマレーシアのイスラム教は、暴力の形をとったこともありません。また他の宗教にも比較的寛容です。それはマレーシアが多民族・多宗教国家であり、互いに互いを支え合いつつ生きていることに根ざしていると思われま

す。マレーシアと国境を接するタイやフィリピンのイスラム教徒による暴動とは国をはさんで非常に対照的です。

元々は寛容で常に人へのいたわりを持っているイスラム教。日本で報道される姿は原理主義といった過激な形を取ることが多いのですが、日常のムスリムは日本人が失ってしまったものをまだ持っているような、そんな優しい宗教だということがわかります。日本人にも馴染みやすいイスラム教を体験するなら、マレーシアはぜひお勧めです。



ムスリムとクリスチアンの同僚と。髪を被うのはイスラム教の慣習